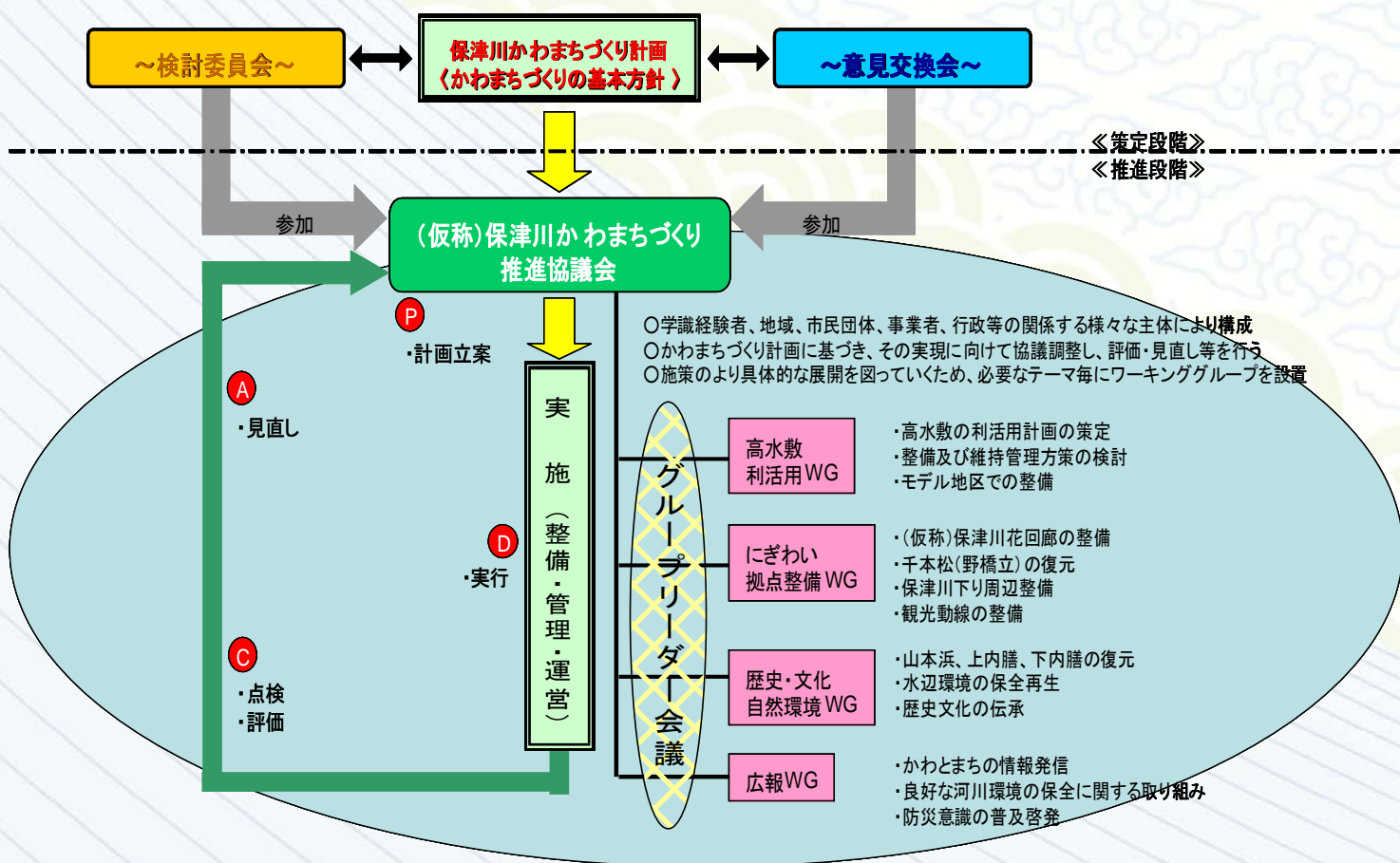


これからの進め方

- 保津川かわまちづくりに関係する様々な主体に参加いただき「(仮称)保津川かわまちづくり推進協議会」を設置し、具体的な実施主体や整備手法などの協議・調整を行います。
- 同推進協議会には複数のワーキンググループを設置してテーマ毎に個別具体的な検討を行います。
- 具体的な検討はモデル地区を選定して優先度の高い区域から先行的に進めます。
- 計画の実行に際してはPDCAによって段階的に実施内容の質や効果を高めます。
- 計画の実施効果を高めるためにソフト施策を充実させていきます。

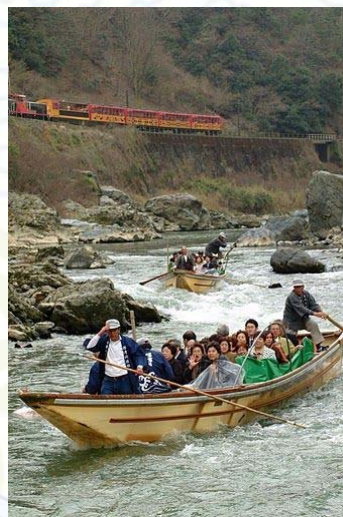
保津川かわまちづくりの推進体制



表紙写真提供 上：航空写真、洪水写真（京都府） 下：丹波亀山城跡、亀岡祭（亀岡市） 保津川下り（保津川遊船企業組合） アユモドキ（岩田明久氏）

保津川 かわまちづくり計画 の概要

(案)



むすぶ

にぎわう



ふれあう



かわまちづくり
を目指して！

保津川かわまちづくり計画（案）

「保津川」は、長岡京・平安京の造営時に丹波の木材を筏に流して輸送し、また江戸時代には木材や食料などの多くの物資を丹波から京都に運ぶ舟運の役割を担っていました。今でも豊かな穀倉地帯への用水供給や貴重な水と緑の自然空間、保津川下りやトロコ列車などの観光資源、多くの生き物の生息環境等の様々な役割を果たしています。一方、保津峡の狭窄によって、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返し、亀岡地域に多くの被害をもたらしてきましたが、日吉ダムや河道改修による治水対策の進展により、以前に比べ治水安全度は飛躍的に向上しました。

これからは引き続き治水対策を着実に進めるとともに、沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきた保津川の歴史や文化を踏まえながら、川を活かした新たなまちづくりが望まれています。

このような中、「保津川かわまちづくり検討委員会」を設置するとともに、市民団体の方々等との「意見交換会」を開催し、幅広く意見をお聴きしながら「保津川かわまちづくり計画」を策定しました。

今後は、この計画に基づき、多くの方々の参画のもと、保津川と亀岡の魅力が最大限に活かされた“かわまちづくり”の実現へとつながっていくことを期待するものです。

『かわ』の特性

- 古から地域の暮らしと発展を支えてきた保津川
- 今日を築いた度重なる水害との戦いの歴史
- 良好な水質と豊かな自然環境
- 様々な河川利用が行われている貴重なオープンスペース

『まち』の特性

- 京阪神に近く、快適で暮らしやすい住宅都市
- 保津川沿川は広大な農地が広がる田園都市
- 城下町として歴史的資源を有する歴史文化都市
- 沿川での新しいまちづくり

目標1：『かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり』

- かわとまちの接点の一体的整備
- かわとまちをむすぶネットワークの形成
- 川の楽しさ、恐ろしさを伝える情報の発信

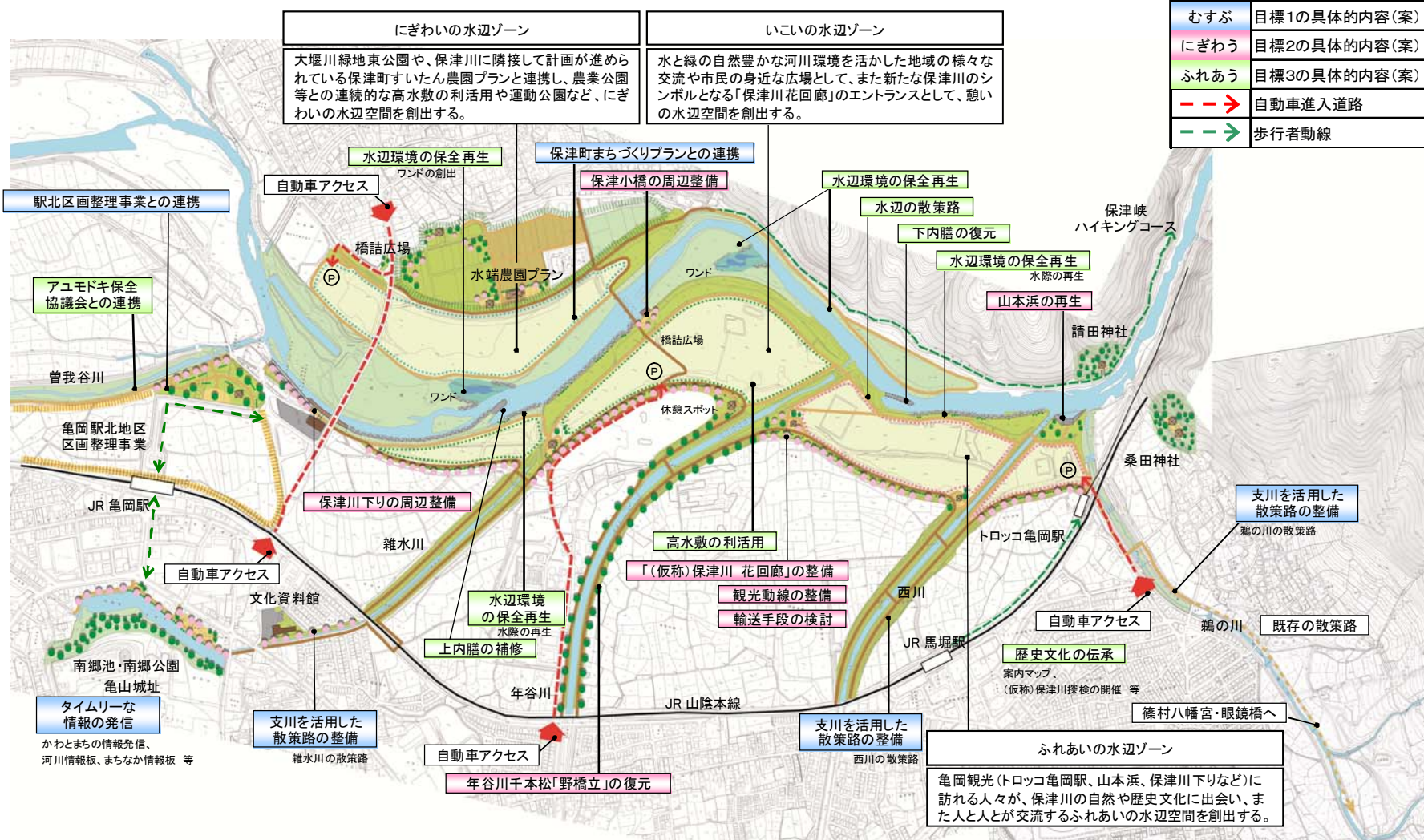
目標2：『かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり』

- 保津川のシンボルの創出
- 観光拠点の整備充実
- まちの資源を活かした観光ネットワークの形成

目標3：『かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり』

- 川の自然を感じる交流・ふれあいの場の創出
- アユモドキをはじめ多くの生き物の生息環境の保全再生
- 保津川と人との関わりの歴史文化を伝える

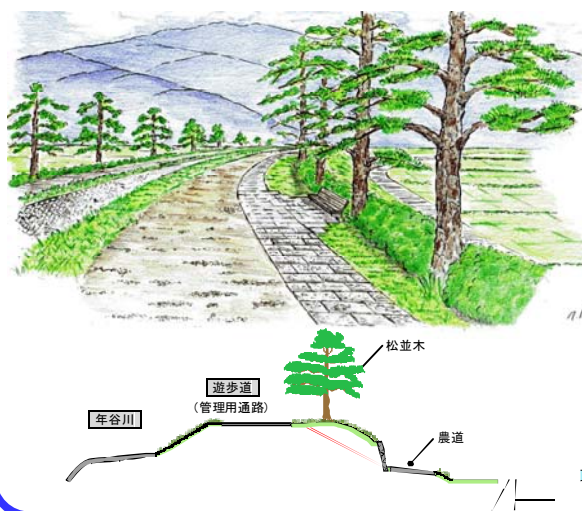
保津川かわまちづくり基本構想図



“むすぶ”

治水対策やまちづくりの進展を活かして「かわ」と「まち」のより良い関わりを結んでいくための取り組みを進めます

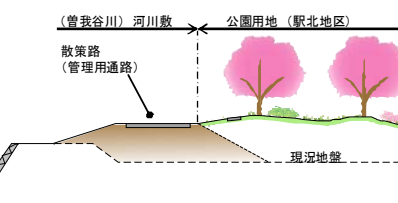
年谷川の松並木道「野橋立」の復元



タイムリーな情報の発信



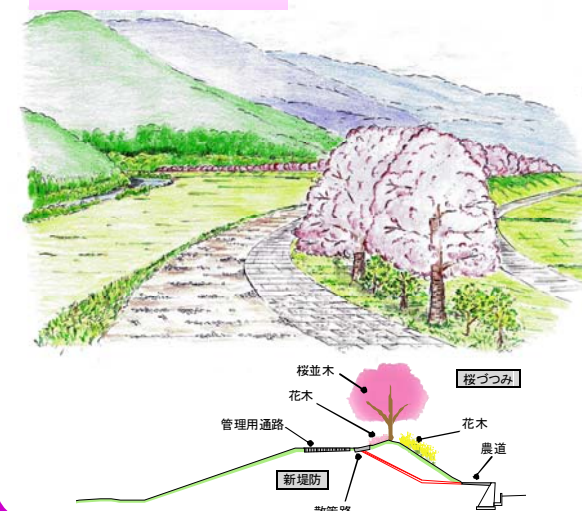
駅北地区区画整理事業との連携



“にぎわう”

地域の観光資源と連携しつつ川を活かしてまちの魅力を生み出す取り組みを進めます

『(仮)保津川・花回廊』



山本浜の再生



観光動線の整備

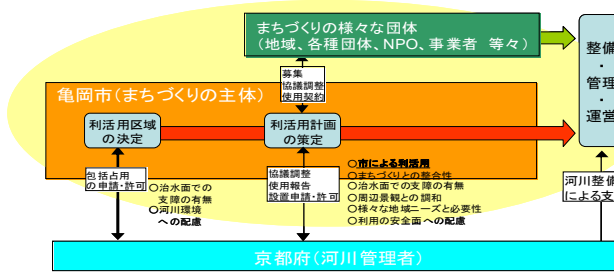


“ふれあう”

保津川の恵まれた自然、沿川の優れた歴史文化にふれあえる取り組みを進めます

高水敷の利活用

高水敷については、亀岡市が中心となって包括的活用制度を活用し、まちづくりとの整合を図りながらゾーン毎の特性を踏まえた利活用を推進します。



上内膳・下内膳の復元



水辺の保全再生・散策路

